

2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会議事要旨

日 程：2025 年 3 月 14 日（金） 13:30～16:30

会 場：オンライン

会 員 数：777（2025 年 3 月 1 日現在）

出席会員数：456（うち、事前投票または委任状による出席 326）（2025 年 3 月 14 日 09:00 現在）

議 案

- | | | |
|---------|------------------------|--------|
| 第 1 号議案 | 2024 年度会長選出について（協議） | （資料 1） |
| 第 2 号議案 | 2024 年度監事選出について（協議） | （資料 2） |
| 第 3 号議案 | 2024 年度運営委員会委員について（協議） | （資料 3） |
| 第 4 号議案 | 規程改正について（協議） | （資料 4） |
| 第 5 号議案 | 2024 年度活動計画について（協議） | （資料 5） |
| 第 6 号議案 | 2024 年度予算について（協議） | （資料 6） |

報 告

- | | | |
|---|-------------------------------|--------|
| 1 | 2024 年度活動について（報告） | （報告 1） |
| 2 | 2024 年度決算について（経過報告） | （報告 2） |
| 3 | JAIRO Cloud 共同運営本部の活動について（報告） | （報告 3） |

意見交換

JPCOAR の今後の体制・活動について（意見交換）

議事：

議事に先立ち、杉田運営委員会委員長（京都大学附属図書館事務部長）から、「オープンアクセスリポジトリ推進協会会則」（以下「会則」という。）および「通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則」（以下「細則」という。）に基づくオンライン会議として、2024 年度通常総会を開催するとの報告があり、総会開会要件の確認と、総会が成立している旨報告があり、開会が宣言された。

引き続き、オープンアクセスリポジトリ推進協会会長（名古屋大学附属図書館）の浅川晋副館長から開会挨拶があった。

議案 1）2025 年度会長選出について（協議）

杉田運営委員会委員長から、会則第 6 条に基づき、資料 1 により会長として、名古屋大学附属図書館の推薦があった。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

議案 2）2025 年度監事選出について（協議）

杉田運営委員会委員長から、会則第 7 条に基づき、資料 2 により監事として、東京外国語大学附属図書館および会津大学附属図書館の推薦があった。事前質問及び出席会員から

の質問はなかった。

議案 3) 2025 年度運営委員会委員について (協議)

杉田運営委員会委員長から、資料 3 に基づき、以下の説明があった。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

- ・継続予定の委員が人事異動等により継続困難となった場合、運営委員会において運営委員会規程第 3 条に定める委員数内で後任候補を選出し、会則第 10 条の第 2 項及び第 4 項の規定に基づく文書による臨時総会で審議する。

議案 4) 規程改正について (協議)

吉田運営委員会委員から、資料 4 に基づき、以下の説明があった。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

- ・運営委員会規程に定足数と表決についての規程がなかったために条文を追加するものである。

報告 1) 2024 年度活動報告 (報告)

野中運営委員会委員から、報告 1 に基づき、組織・体制、会議 (総会、運営委員会) および活動方針に基づく作業部会等の活動報告があった。以下の通り事前質問があり、杉田運営委員会委員長が回答した。

【事前質問】

企画・調査担当の報告が作業部会のフォーマットと同じで、専任職員を置くことで可能になったことやどのような役割を担っているかがわかりにくいため、他の作業部会等とは位置づけが違う専任職員を配置し、どのような業務を担っているのか、他の作業部会等とはどのような関係なのかを明示してほしい。

【回答】

運営委員会直属スタッフとして協会運営を活性化した。具体的には、作業部会や JAIRO Cloud 共同運営本部などの主な打ち合わせ等に参加し、主要イベントやプロジェクトの企画立案に参画するとともに、各活動単位のリエゾンとして連携・協働・認識共有を促進した。また、関連動向調査 (日常的な情報収集に加え、2024 はダイヤモンド OA サミットに出席し、オンライン報告会を開催) も行っている。

議案 5) 2025 年度活動計画について (協議)

杉田運営委員会委員長から、資料 5 に基づき、協会全体としての取り組み及び JPCOAR

活動方針（2022-2026 年）に基づく作業部会・タスクフォースの 2025 年度活動計画（案）の説明を行った。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

報告 2）2024 年度決算（経過報告）

吉田運営委員会委員から、報告 2 および参考資料 1 に基づき、JPCOAR 会計処理にかかる基本方針（機関経理、単年度予算、収支均衡）の説明と執行の経過報告を行った。4 月以降に収支が確定したのち監事監査を経て、決算として臨時総会（メール）で審議される予定との補足があった。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

議案 6）2025 年度予算について（協議）

吉田運営委員会委員から、資料 6 および参考資料 1 に基づき説明を行った。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

報告 3）JAIRO Cloud 共同運営本部の活動について（報告）

高橋運営委員会委員から報告 3 により JAIRO Cloud 共同運営本部の活動報告及び吉田運営委員会委員から国立情報学研究所からの報告が行われた。事前質問及び出席会員からの質問はなかった。

意見交換）JPCOAR の今後の体制・活動について（意見交換）

杉田運営委員会委員長から 1. 会長職、2. 地域コミュニティ振興、3. 来年度の活動の課題提起とたたき台の提示があり、Slido を使用して意見交換が行われた。別紙の意見があった。

以上をもって 2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会を閉会した。

事務連絡

事務局から次の連絡を行った。

- ・ 3 月 21 日 17 時までに投票願いたい。
- ・ 2025 年度活動計画決議後、すみやかに作業部会員の募集を行う。ウェブサイトと一斉メールで会員機関に広報する。

以上

JPCOAR の今後の体制・活動について（意見交換）でいただいたご意見

1. 会長職について

- ・ うちの小規模の機関であり、担当者は基本1人です。そのため試案1の輪番制は、正直かなり荷が重く感じます。無責任な発言ともとられてしまうことは重々承知しておりますが、小規模機関の難しさもご一考いただけますと幸いです。
- ・ 試案1については、機関数から考えると現実的ではないと思います。
- ・ 会長職は廃止し運営委員会主体にするという案も良いように思います。過去、輪番で運営委員会に参加した者です。末席でお話を聞くだけでしたが、検討過程などが少し見えてためになりました。会長館を無理に決めるよりは、運営委員として順番に参加するのも良いのかもしれません。
- ・ JAIRO Cloud のコンテンツ登録数の上位順で、国立大学法人と私立大学との交互で選出する（よく利用している機関が担う）というのは如何でしょうか。但し一度会長となった場合、10年は採用されないこととする。
- ・ 試案3は地区によって大学数に大きな差があるので地方の地区の負担は大きくなると思われます。
- ・ 大学以外の機関の場合、大学のように「附属図書館」並びに「（大学の場合は教員が任じられる）附属図書館長」が存在するわけではないので、図書館として会長館を担うことは現実的に厳しいです。
- ・ 会長を「館」が務めることを前提に考えると、案2をベースにしつつ、地方にもふった方がよいと思います。「地方」の分け方はいろいろありますが、公平になるように地域割りを考えて場よいかと思います。
- ・ 会長はやはり組織（館）である必要がありますでしょうか。組織名だと関係各所への説明が重い気がします。個人名ならまだ委嘱しやすくなりませんか。
- ・ 会長館になることのメリットについてお考えを聞かせていただけますでしょうか。
- ・ そもそも、会長と運営委員会委員長の二段構えが実質的に必要かという観点もあるかと思います。
- ・ ガバナンス的に（運営委員会の暴走を防ぐなど??）という意味では必要なのだと思いますが、実質的な機能面ではどうお考えでしょうか。
- ・ ガバナンスという趣旨から、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に（改めて）入るという選択肢はないでしょうか？
- ・ 今後の会長職については、廃止に賛成です。JPCOAR を実務者の共同体にしたらよいと思います。

2. 地域コミュニティ振興について

- ・ 地域に大学図書館関係の団体がいないところもあるかと思いますが、単体の大学図書館で要望した場合に地域に展開できるような仕組みも併せて用意してほしいです

- ・ 是非開催していただきたいです。もし可能であれば、ハイブリットでオンラインから参加できるようにしていただくと大変嬉しいです。
- ・ 研修会はオンラインだけだと当館は事務室がなく館内から視聴しておりますため質問がしにくいです。チャットは何度も打ち直しています（これも）。直接対面で講師に細かく質問できる機会を希望します。
- ・ 講師派遣、興味はすごくありますが、地域の催しを企画し始めるのが夏以降ということも多いので、募集時期についてそのあたり配慮いただきたいです
- ・ 講師派遣について、地域の軸だけでなく、規模の軸でも派遣するのもいいかもしれません。大規模大学の場合は対面のほうが効果があるけれど、小規模大学の場合は1人で多くの業務を回しているのオンラインのほうが良いという場合もあります。
- ・ 実務担当者です。これまでの研修につきまして、具体的にどれがどうだったと今申し上げにくいですが片耳だけでもできるかぎり参加したいとかぶりつかせていただきました。それから、講師派遣していただけるつきましては、皆様のノウハウをご教授いただきたいと個人的に思っております。国立大学間の転勤があつたりのようにがつつりした交流はできないとしても、他大学さんとの交流が持てるととてもいい機会ですし、生み出されるものが大きいと思っております。
- ・ 講師派遣について、実施していただくと大変助かります。大規模館の事例だと予算的に実施が難しいことがあったので、小規模館同士など近い事例の方で教えていただくとありがたいです。
- ・ 良いことだと思いますが、地域へ講師を派遣することで JPCOAR の支出が増えることになるようであれば、会員館の会費の支出として相応しいかという問題が出てくるかもしれません。地域で研修する場合はハイブリッドで会員館も参加できるようにするなどの検討が必要かと思えます。

3. 来年度の活動について

- ・ 地域への講師派遣よりも、システムの安定稼働に予算をあててほしいと思います。信頼のおけるシステムを実現できれば、講師派遣や問い合わせサポートにかかる負担も軽減されるはずです。システムの安定稼働に予算が圧倒的に足りていないのであれば、利用料金の見直しもやむを得ないと考えています。
- ・ Jairo Cloud の運用の安定化とサポート問い合わせのフローの改善に、JPCOAR としてもっと強くコミットできないものでしょうか。
- ・ JAIRO Cloud の安定的な運用のため、各機関でのカスタマイズはなしとし、全機関がおなじ利用環境で使うことは難しいのでしょうか。その方が、課題が発生した際のコミュニティ内での解決も容易になるような気がします。
- ・ 「即時 OA に備える」シリーズの連続ワークショップは実務に沿っていて大変参考になりましたので、また開催していただきたいです。
- ・ JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアルの充実を希望します。
- ・ 各大学で取り組まれた OA 加速化でのシステム開発や研修会の資料のアーカイブなど

が散逸しないように、JPCOAR でとりまとめられるとよいと思います。

- ・ 内閣府や文部科学省、関係諸団体との対話は、コミュニティとしての力が発揮されるものだと思います。
- ・ 明確な答えはないものとは思いますが、なぜこれ程までに weko3 に不具合が発生しているのか知りたいです。理由の一片にでも触れられれば、理解し納得することもできるのではないかと考えております。
- ・ 「OA 加速化事業支援のための取組」は、全般的に大変ありがたかったです。とても参考になりましたし助かりました。コミュニティの強さ、ありがたみを実感しました。
- ・ 手前味噌ですが、ウェブマガジンの佐藤翔先生の海外記事動向についての連載やフォーラムの参加報告等は大変参考になりますので、ぜひ続けていただきたいです

4.その他

- ・ JPCOAR 総会には館長と課長と係長で参加しました。リポジトリ実務を唯一担当している係員は不参加でした。管理職には分かりにくい報告 1 や報告 3 などは省いて総会の議事をもっとコンパクトにすべきと思います。
- ・ Slack で仕切り直して継続的に検討してはいかがでしょうか